



校長挨拶

久留米工業高等専門学校は、実り豊かな筑後平野を悠々と流れる筑後川と宝満川が合流するほとりに位置しています。ここ小森野の地には、今から80年以上前に、我が国の発展を担う技術者の育成を目的にした旧制久留米高等工業学校が建てられました。その後時代と共に変遷をたどり、1964年に、中学校卒業後の5年間で実践的・創造的技術者を養成する高等教育機関として制定された高等専門学校の第3期校として、本校は設立されて現在に至っています。1966年3月に全国の高専で初めて卒業生を輩出して以来、本校の卒業生は1万余名に及び、国内外において優れた創造的なエンジニア、研究者や社会人として各方面で活躍しています。

本冊子は、本校の教育や研究の方針や内容とともに、学生生活や社会との結びつきの状況など、本校が進めている様々な活動を広く一般の方々にご紹介することを目的としています。

本校は、ここに記述していますように、5年課程の本科に、機械工学、電気電子工学、制御情報工学、生物応用化学、材料システム工学の5学科を配しており、そこでは大学受験で中断されることなく、一貫した専門教育とともに人格形成に資する教養教育を行っています。その後に続く2年の専攻科では、機械・電気システム工学と物質工学の2専攻に分かれてさらに深く専門性を磨き、修了後には大学卒業と同様の学士の称号を得ることができます。また専攻科では、九州大学工学部と連携した教育プログラムコースが開設され、このコースを修了した者は、専攻科の修了証書とともに九州大学工学部卒業証書（学士の学位記）も与えられます。



久留米工業高等専門学校
校長 南 新平

本校は「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」を教育理念として掲げて、将来に夢を託すことができる優れた人材の育成に教職員をあげて取り組んでいます。本科生の約5割は卒業後に就職して社会で活躍をし始めます。本校卒業生には社会の各方面から有能な人材として非常に高い期待が寄せられており、有難いことに就職志望者数の約40倍にも達する求人が各界から毎年寄せられています。残りの約5割は本校専攻科あるいは九州大学や九州工業大学等の大学3年生に進学して、さらに研鑽を積んでそれぞれの道を歩んでいきます。本校専攻科卒業生への求人倍率も例年100倍以上と極めて高く、本校の教育理念は十分に実現できているものと確信いたします。

高等専門学校は高等教育機関として、産業界や地域社会との連携・協働を密にして、そこで生じている様々な課題の科学的な解決に取り組み、それらを通して人材教育の高度化を図ることも使命としています。そのために本校は、久留米市内の大学等の4つの高等教育機関からなる「高等教育コンソーシアム久留米」や近隣の技術系企業、大学、研究機関などが参加している「テクノネット久留米」などの連携事業に積極的に関わって、主要な役割を果たすとともに、久留米商工会議所、日本歯車工業会、日本ゴム協会九州支部や、九州大学・工学系部局、久留米工業大学などとも個別に協定を締結して、社会から寄せられるご期待に積極的に応えています。

是非とも久留米工業高等専門学校の活動や動向にご注目とご関心を寄せていただき、一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新入生の抱負

未完成的可能性

機械工学科 1 年 コックス 音人

新緑が眩しく、夏の気配が感じられるようになったこの頃。四月に高専に入学してから、早くも二ヶ月が経ち、高専での生活にも少しずつ慣れてきたように思いますが、まだどこか落ち着かない雰囲気も感じます。

私たちのクラスは言ってみれば、「試作品」のような存在なのかもしれません。機能はそろっていても、うまく動かない部分があり、調整が必要な段階です。けれど、試作品には試作品にしかない可能性があります。改良を重ねながら、さまざまな「バグ」や「誤差」を改善し、より良いクラスをつくっていかうと考えています。たとえ今はうまくいかないことがあっても、それを反省し、学びに変えていくことが大切です。授業や部活動、日常の交流を通じて、私たちが協力して進むことで、より良い仲間として成長できると信じています。

具体的には、互いにコミュニケーションを大切にし、意見をしっかりと伝え合うことを意識していきたいと思います。時には意見が食い違ったり、グループワークやクラスの活動でスムーズに進まなかったりすることもあるかもしれませんが、しかし、それも「試作品」であることの証です。試作品は最初から完璧ではなく、改良を重ねる中で完成形に近づいていくものです。そうした段階を経ながら、お互いの役割や特技を理解し合い、全員が自分の強みを発揮できるような環境を整えていきたいと思います。それぞれが持つ専門知識や趣味を尊重し、互いにサポートし合うことで、クラス全体をより充実したものにしていきたいです。

この一年間で、「試作品」から「完成形」に少しでも近づけるよう、互いに学び合い、支え合いながら、前向きに歩んでいきたいと思います。私たちのクラスは、まだまだ未完成です。でも、その未完成さこそが、無限の可能性につながっているのです。これからの日々を通して、より良いクラス、そしてより良い自分自身を目指して、一步一步進んでいきたいと思います。

新たな日々の計画

電気電子工学科 1 年 荒巻 悠真

私はあまりこのような文章を書くのが得意な人間ではありませんが、せっかく級長になったということで頑張ってお綴らせていただこうと思います。

私は数年前から目指していた当校に無事に入学することができ、内心かなり浮足立っています。ようやく入学できたので新たな環境で気持ちを切り替えて学んでいきたいです。とはいえ、前々からの目標を叶えられたということで春休み頃から少し燃え尽き症候群に近い状態にもなっている気がしています。そのため、まずは新たな生活に慣れて自主的な学習習慣を身につけることを目標としています。課題はもちろん、授業の予習・復習などを日々の中で当たり前に行えるようになりたいです。個人的に狙っている資格等もあるので、ゆくゆくは学校外の学習も生活に取り入れていく予定です。その際は、せっかく恵まれた環境に進むことができたので周りの先生方にも頼っていききたいです。

私たちのクラスは色々な意味でエネルギーに満ち溢れています。入学して間もない頃は、静かな人が多いのかな？と思っていましたが気のせいだったようです。休み時間は騒がしいものの日々の授業や活動では各々が真剣に取り組むことができています。なぜか合宿研修が今年から学内研修に変更されて凹んでいる人も多かったですが、交流会では全力を尽くし、しっかり優勝していくその団結力がこのクラスの強みの1つだと感じました。私の周りの友人達はやはりハイテンションだったり、少し抜けていたりしますが非常に面白くて頼りになり、これからも仲良くしていきたいです。これまでとは異なり、5年間同じ仲間たちと学習していくため互いに協力し、留年することなく卒業したいです。そして、この5年間でクラスの良さや強みをよりたくさん見つけていけたら何よりだと考えています。

この学校には私達にとって未知の学びや経験等が数多くあると思います。その1つ1つを楽しみながら、個人としても、集団としても、私達は大きく成長していきます。その姿を温かく見守って頂けると幸いです。

新入生の抱負

抱 負

制御情報工学科 1 年 井上 想太

私はこの久留米工業高等専門学校での新生活に少しの不安とおおきな期待を胸に入学式を迎えました。そんな入学式から少しの時間が過ぎ、新しい友達、私服での登校、90分の授業など新しい環境にも慣れてきました。そんな中で私は高専生活を有意義にしていくために3つのことを意識して大切にしていきたいと思います。

1つ目は、やはり勉強です。高専は普通高校とは違い、90分授業で進むスピードもはやテストでの赤点も60点が基本となっています。そのため、授業中に集中して取り組むのはもちろん、自主的に予習や復習を行うように心がけていきたいと思います。まわりには丁寧に教えてくださる先生方、共に教えあい、高め合える仲間がいるのでこの恵まれた環境で熱心に学習に取り組んでいきたいと思います。また、高専では専門的な学習があります。しっかりと専門的な知識を身につけ、将来の自分に役立てられるように学びを深めていきたいです。

2つ目は、人との繋がりで。私はこれまで多くの人と出会い、久留米高専でも新しい出会いをたくさんしました。その中で自分をさまざまな面から支え、関わってくれる人たちが周りに多くいると感じました。そのような人たちへの感謝を言葉や行動で示し、人との繋がりを大切にしていきたいです。

3つ目は私生活です。久留米高専は高校と比べ自由な校風だと思います。どちらかというと大学に近い感覚だと思います。そんな中で多くのことが自己責任になり自分で考えて行動していかなければなりません。だらけた生活を送るのも、充実した生活を送るのも自分次第です。そして私は充実した生活を目指して日々過ごしていきたいです。そのために勉強、部活、学校行事などどんなことにも積極的に全力で取り組んでいきたいです。

この3つのことを特に念頭において学校生活を送り、もっと自分が成長できるように頑張っていきたいです。

スタート地点

生物応用化学学科 1 年 池谷 佑俐

中学生の頃から目標にしてきたこの久留米工業高等専門学校に入学して、2か月が経ちました。寮生活にも慣れ、毎日楽しい日々を過ごしています。

私は、何か取り組む際に自分自身を律することには自信があるほうでした。しかし、入学してみると意外にもうまくいきませんでした。寮生ということもあり、通学中の勉強時間はゼロ。部活も始まると放課後ですら勉強する時間は少なくなり、自主学習の時間がゼロという日もありました。さすがにこのままではいけないと思い生活習慣を見直し、改善を行いました。最近ではうまく勉強の時間を確保することができていますが、このことから私たちは学生として扱われる立場であり、すべてを自らで考え、行動に移していく必要があるのだと身を持って実感しました。そして寮生の強みである、通学時間ゼロを生かして集中して勉強に励み、自分を甘やかさない生活を送っていきたいです。

また在学中に、自分の良さを見つけることができるようになりたいです。私は今まで、どんなことも中途半端に終わってしまい、自分の良さや強みが見つからないことが多々ありました。ですが、これからの将来のことを考えると、自分の良さを自ら理解しアピールすることは重要となっていきます。そのためこれから長い学生生活を通して、自分の良さや強みを発見していきたいです。

もう1つの目標は人と関わることです。1年生の学内研修や、普段の授業を通してクラスの仲は深まりました。中学生のころは「友達を100人作る」という目標を胸に、生徒会執行部をはじめとする、数多くの委員会活動に励んでいました。とても忙しい日々を過ごしたのですが、友人と過ごしたかけがえのない思い出の一つでもあります。そして私はこのような思い出を高専でも作っていきたくて考えています。特に高専は5年間を共にするクラスメイトや幅広い年齢層の先輩方がいらっしゃいます。部活動や委員会活動、行事、寮生活を通してたくさんの人と関わって素晴らしい思い出を作っていきたいです。

最後に、久留米高専生という自覚と誇りを持って仲間と切磋琢磨しながら、これからの生活を目いっぱい楽しみ、5年後に笑顔で本科を卒業することをここに約束します。

新入生の抱負

出会いと挑戦

材料システム工学科 1 年 古賀 彩葉

念願の久留米高専に入学して約2か月が経った。入学当初は友達ができるか、学校生活を楽しめるか、勉強についていけるか、不安なことがたくさんあった。でもそんな不安は今やどこへいったのか。日々楽しい思い出が増え、毎日幸せで充実している。学校生活にも慣れてきて、最初は休み時間にもシーンとしていた教室も今では朝からたわいもない会話が飛び交っている。わきあいあいとした雰囲気とても居心地のいい空間だ。今、私が新しい趣味や関心を見つけたり、中学校までにできなかったこと、知らなかったことを体験できているのは、友人や先輩方、先生方との素敵な出会いのおかげだと思う。だからこそ、これからも日常に感謝し、出会いを大切にしていきたい。

ところで、私が久留米高専に入学して頑張りたいことについて書いていこうと思う。

1つ目は、勉強だ。私はもともと数学や理科が得意ではない。むしろ、国語や英語のほうが得意だ。それでも高専を選んだのは、将来「アスファルトの研究」がしたい！という目標があるからだ。自分の夢をかなえるため、応援してくれる家族や親戚、お世話になってきた方々のため、勉強が大変でもこの学校を志望した初心を忘れずに努力する。また高専の授業は90分授業と進行速度が早いので、復習の癖をつけ、授業中に理解度を少しでもあげられるよう先生や友達に積極的に質問をして頑張りたい。2つ目は興味・関心を深めることだ。私にはやりたいことがたくさんある。言語の勉強や手話、バスケの審判資格、ダンスなど、まだまだ挙げきれない。でも、今はまだ上手な時間の使い方を模索している状況だ。私は高専の自由度が高いという点や2か月間の夏休みなどを有効活用し、5年間かけて自分の興味や関心を深めていこうと思う。そして、もっと様々な人と関係を築き、視野や価値観を広げていきたい。

私は、高専での生活を通して、多くの人と関わり、積極的に挑戦して、将来のために少しでも多くの経験値を積み上げていこうと思う。そして、何より健康に気を付け、クラスメイトや同級生、先輩方とこの高専生活を存分に楽しんでいこうと思う。

自分を変える2年間へ

機械・電気システム工学専攻 1 年 寺崎 琳

専攻科へ進学し、本科から続く慣れ親しんだ環境で学ぶ日々が始まった。環境の大きな変化がない分、これまでと同じような気持ちで過ごしてしまいそうになる一方で、本科のころとは異なる刺激や責任も感じている。本科入学当初はコロナ禍の影響で入学式も行事もなく、静かに始まった学校生活だった。気づけばあっという間に5年間が過ぎており、専攻科に入学した今、時間の流れがさらに早くなっている感覚がある。専攻科生として過ごす時間は、本科のころとは比にならないほど早く感じるだろう。だからこそ、この5年間が自分にとってどれほど貴重で大切な時期なのかを強く意識している。

専攻科では、少人数での授業や本科からの継続性を意識した教育が行われており、より深く密度の濃い指導を受ける機会が増えた。また、他学科出身の学生との関わりが増え、日々新たな視点や刺激を受けている。そうした中で、これまでよりも広い視野を持ち、自分の学びの方向性を見つめなおすようになった。正直なところ、将来どんな仕事につきたいのか、自分が何をしたいのかという明確な目標を持てていない。焦る気持ちを原動力として、この2年間でさまざまなことに挑戦し、自分の可能性を広げたいと考えている。

本科時代はテストで安定した席次を取れていたものの、いざ研究や実践の場面になると忘れていることが多く、知識が活かせずに自信をなくすことも少なくなかった。専攻科ではその反省を活かし、自分の知識を「使える力」に変えることを目標に、日々の学びに取り組んでいく。課題に追われる毎日ではあるが、学会での論文発表や資格の取得などの新たな挑戦の機会を逃さず、自分の力を伸ばしていきたい。

専攻科の2年間は行事も少なく、華やかさには欠けるかもしれないが、その分自分の意志次第でどこまでも成長できる環境だと感じている。今までの延長ではなく、新たな自分をつくる場として目の前のことに全力で向き合い、一日一日を大切に積み重ねていきたい。そして、将来振り返ったときにこの時期が自分を変えたと思えるような、実りある学校生活にしたいと強く思う。

新入生の抱負

本科5年間を活かしての抱負

物質工学専攻1年 古閑 朝斗

本科5年間の高専生活は、大変な部分もたくさんありましたが、クラスや部活の仲間に恵まれ私にとって非常に充実した時間となりました。特に部活は僕にとって大きな存在でした。僕はサッカー部に所属していました。サッカー部では技術面以外に壁にぶつかった時に部員同士で話し合っ解決したり、時間を守ったりなど人間的な成長をさせてもらいました。色々な困難もサッカー部があることで乗り越えられたし、周りの仲間にとっても恵まれ、部員とは今でもよく話しています。この経験を活かして専攻科では二つのことを目標に頑張りたいと思います。

1つ目は、色々な人と関わることです。専攻科では他学科と同じ授業を受けることもあり、本科に比べて他学科との交流が増えます。僕自身本科では、行き詰ったりしたときコミュニケーションを取ったり自分の好きなことをすることで乗り越えていました。その時周りの仲間の存在が大きく、色々な人に助けられました。専攻科では、授業がより専門的になったり、課題に追われたり大変なことが多くなると思います。そこで周りの仲間とコミュニケーションをとり助けたり、助けられたりと良い関係を築き、乗り越えていきたいと思っています。

2つ目は、授業で学んだことを自分のものにすることです。本科ではテスト期間のみの勉強だったため、それが終わったら忘れていた部分も多くありました。なので授業、研究を真面目に行い、実践的なスキルを身につけていきたいと思っています。また専攻科では新しい研究室になったので、先生や研究室の仲間と話してより良いものにしていきたいと思っています。

高専での5年間は私にとって大きな財産であり、専攻科での新たな挑戦が今から楽しみです。目標をあまり持たないまま専攻科に入学してしまいましたが、本科5年間での成長した部分を活かし、この2年間で目標を決めてその目標に向かって努力し続けていきます。将来を見すえて、学び続ける姿勢を大切に、社会に貢献できる存在になりたいと思っています。

本科1年生クラス担任紹介

有意義な5年間に

機械工学科1年担任 一般科目(文科系)教授 徳永 美紀



専門は英語教育で、1年生は「英語1」と「英語表現1」を担当しています。今年娘が中3なので、受験を終えた皆さんをみていると「お疲れ様。」という気持ちになりますが、皆さんの勝負はこれからです。高専には、部活や行事、各種コンテストなど、挑戦できる事が沢山あります。長い夏休み、春休みもあります。与えられたことだけして終わるのか、色々な事に積極的に挑戦するのかで、5年間で得られるものは大きく違ってきます。この「高専通信」が発行されるのは7月、中間試験は終わっています。もう赤点ばかりで後悔しかない、なんてことになっていませんか？皆さんにとっての「高専生時代」が有意義なものになるよう、応援しています。

新入生の皆様

電気電子工学科1年担任 一般科目(理科系)准教授 沖田 匡聡



今年度は、1年電気電子工学科の担任を務めることになりました、数学の授業を担当する沖田です。新年度が始まり、数カ月が経ちましたが、新しい生活には慣れてきたでしょうか。これまでの生活とは大きく変わり、戸惑いや不安を感じることも多いかもしれません。授業の内容や進度が、中学校までとは大きく異なると感じている人も多いと思います。高専生活は5年間あり、学ぶ内容も年々増えていきます。今のうちに「勉強する習慣」をしっかりと身につけておくことが大切です。数日の遅れは取り戻せても、数年の遅れは簡単には取り返せません。1年生の内からしっかりと勉強の習慣と基礎学力の定着を心掛けていきましょう。

学校生活を楽しみましょう！

制御情報工学科1年担任 一般科目(理科系)准教授 中村 駿介



一般科目(理科系)に所属している中村と申します。専門は数学のグラフ理論という分野です。4年生で「リベラルアーツ特論(グラフ理論)」という科目があります。興味のある学生は、是非受講してください(最近、不人気なのが気になる)。クラスにもそろそろ慣れてきて、クラスの友人と話せる機会が増えたと思います。1年生での学校生活は、高専生活の基礎になるものだと思います。クラス全員が協力をして、人任せではなく一人ひとりが主体的に行動することが大切です。そうすれば、クラス全員が楽しく学校生活を送ることができるのではないかと思います。学校生活を楽しみましょう！

本科1年生クラス担任紹介

Growth

生物応用化学学科1年担任 一般科目(文科系) 准教授 徳永 正尚



「学校」に籍を置いてそれなりの年月が経ちました。これまで高等学校、中学校、そして現在の高専と種々の学校に勤務してきました。高校・中学在籍時に担任や授業を持ったクラスの生徒も、今では社会で活躍する人が多く出てきています。社会人として立派になっている姿を見ると、当時のことを思い出しながら人の成長について考えることがあります。人として成長するとはどういうことか。高専は一般の高校と多くの点で異なりますが、卒業後は高校・大学を卒業した人たちと暮らしていく世界は(当然ですが)同じです。是非あの卒業した人たちのように、人として成長していってくれることを願っています。

未来ある技術者を目指して

材料システム工学科1年担任 一般科目(理科系) 教授 宮本 久一



こんにちは、未来ある皆様と担任という形で接することとなり、楽しみにしています。私の年代から見れば、若いということは何にも代えがたい特権と思われます。どんなことにも取り組むことができる皆様にうらやましく思っています。何に対しても初めてのことであり体験され、勉学、クラブ活動、学生会等、積極的に取り組み、あの時やっておけばよかったとか後で後悔しないよう、高専での生活をエンジョイして下さい。高専での「自由」には自己責任が伴います。自由の意味をはき違えないよう、日々「自立」して過ごすことが大切かと思います。久留米高専での5年間を経て、よりよい技術者として皆様が成長されることを望みます。

新任主事紹介

計画を立てよう：〇〇ができるようになる

今年度より学生主事を務めます生物応用化学学科の石井です。よろしくお願いします。

学生の皆さんは、本校の5年間で専門分野や周辺の知識・技術を学び、卒業後は社会人・技術者として産業界で活躍できる人材に成長していきます。本校の3ポリシー、特にディプロマポリシーでの「〇〇ができる」という方針に従うことで成長に繋がります。この「〇〇ができる」を勉学以外の課外活動やボランティア等にも活かしてみませんか。例えば、体育系のクラブに所属する学生さんに今年の目標を尋ねると、「全国大会に出場する」、「全国大会で優勝する」といった答えが返ってきます。では、その目標に向かってどのように近づくか、どんな準備をするかが重要になります。まずは、個人の能力を高めること、つまり「〇〇ができるようになる」ことが必要です。このためには「計画を立てる」ことが重要ではないですか。何となく毎日の練習を繰り返すよりも、日々目標を持って練習に励むことで、「〇〇ができる」に近づくはず。個人の能力が向上することで、試合でのチームの勝利に貢献し、その結果目標の「全国大会出場」や「全国大会優勝」に近づきます。

パナソニック創業者の松下幸之助氏が残した言葉「時を待つ心は、春を待つ桜の姿といえよう。静かに春を待つ桜は、一瞬の休みもなく力をたくわえている。たくわえられた力がなければ、時が来ても成就しないであろう。」を知っていますか。桜は1年の間に力をたくわえて、春に成長した姿を見せてくれます。力をたくわえることで、「〇〇ができる」ようになります。学生の皆さんは5年間で専門の知識と技術をたくわえて、最後に成長した姿を見せて下さい。5年間の目標、1年間・1ヶ月・1週間の目標、1日の目標をしっかりと計画し、力をたくわえながら、久留米高専での充実した学生生活を過ごすことを期待しています。



学生主事
石井 努

新任主事紹介

寮務主事
横溝 彰彦

それ、僕らがやります！

寮ではゴミ収集日の朝に、寮生が輪番で可燃ごみを乗せたワゴンを寮からメインストリートまで運び、ごみ収集後に空になったワゴンを寮へ戻してくれています。寮務主事補をしていた3年前、当番の寮生が回収し忘れたワゴンを夕方見つけ、当時の主事と私とで寮まで押していました。するとそれを見かけた男子寮生2名が「先生！それ、僕らがやります！すみません！」と言いながら走ってきて、ワゴンを運んでくれました。その2人の当番の日ではありませんでしたが、ゴミ出しは自分たち寮生の仕事であるとの責任感を持ち、教員に尻拭いをさせてはならないと考え、自ら手を差し伸べてくれたのです。「この学生たちの将来が楽しみだな」と感心したのを覚えています。後にそのうちの1人は寮長になって見事なリーダーシップを発揮し、寮生会役員の仲間たちとともに寮祭などの行事の企画運営や生活環境改善など、寮生による自治に尽力してくれました。そのような寮長としての責任や活動をおして、彼は大きな成長を遂げたように思います。

私は教員になる前に事務職を経験しました。そこでは仕事ができる人たちは率先して業務にあたり、経験を積んで仕事の精度を上げ、人脈や信頼を得ていました。オフィスの共有電話が鳴った時は、まるで百人一首をしているかのような奪い合いです。そのような姿勢を上司や先輩は見ています。「この人は見所がある」と目をかけられるようになると、より大きな仕事を任せられ、さらに経験を積み上げていきました。人脈を得たり評価が上がったりすると情報が入りやすくなり、視野も広がります。仕事量は増え難易度は上がるかもしれませんが、それは自身の成長を大きく促してくれます。TVゲームでいつまでもスライムを倒し続けるよりも、強い敵に挑戦した方が大きな経験値を得て早くレベルアップできることに似ているのかもしれません。「若いうちの苦労は買ってでもせよ」という格言もあります。十代、二十代の学生のみなさんは、今まさに伸び盛りです。寮生会、学生会、実行委員、部活動、研究、コンテスト、国際交流、ボランティアなど、やってみたいことがあれば積極的に挑戦してみてはいかがでしょうか。

専攻科主事
谷野 忠和

チャレンジ精神で一段階レベルアップした研究活動を！

新しく専攻科主事になりました機械工学科 谷野です。どうぞよろしくお願いいたします。まず、専攻科について簡単に紹介します。専攻科は、本科(5年課程)卒業後、同じキャンパスで、さらに2年間、より深く専門性を磨くための課程です。本科卒業は準学士ですが、専攻科修了は大学卒業の資格である学士の称号が授与されます。専攻科には、機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科からなる機械・電気システム工学専攻と、生物応用化学科、材料システム工学科からなる物質工学専攻の2専攻があり、これまで別々だった専門分野を横断的に学ぶことができます。専攻科の特色として、2年間の研究活動があり、本科の卒業研究と合わせて3年間、研究活動を経験し、実践力と研究力を養います。専攻科を修了した先輩たちは、約半数が大学院へ進学、残りが企業へ就職し、幅広く活躍しています。

世界に目を向ければ、アジアだけでも急激に科学技術が進歩して競争は激化し、グローバルな視点なしでは成り立たなくなっています。しかしながら、その中で埋もれることなく活躍するには、高い実践力と研究力が不可欠だと考えています。私たち教員も、それに応えられるよう高いレベルでの研究に対応できるように取り組んでいます。専攻科の学生は、本科での卒業研究とは異なり、自ら考え進めていくような一段階レベルアップした研究ができるように心掛けてください。また、専攻科での活動を通して、自分の好きなこと、自分自身の善し悪しを見つけてください。さらに、研究成果については、積極的に学会講演会で発表するなどチャレンジしてください。若いときに苦労して頑張ったことは必ず役に立ちます。また、グローバルな視点を持つには海外に行くのが最も近道です。本校でも海外派遣や国際会議発表などへの支援がありますので積極的に手を挙げ、若いうちに海外を経験し、厳しい環境に飛び込んでみてください。

最後に、専攻科には、令和5年度から開始した、九州大学との「九州大学工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラム」もあります。興味のある本科生は、夏休みに開催されるインターンシップなどのイベントに積極的に参加してください。

新任主事紹介



国際担当主事
山本 郁

高専でグローバルマインドを育もう

今年度から、本校に国際担当主事室が新設されました。これは、国際的な交流や研究活動を通じて、グローバルに活躍できる技術者の育成を目的としたものです。特に皆さんの国際的なコミュニケーション能力の向上や、海外で積極的に活動できるマインドを育むため、国際的な視野を持ってもらえるようさまざまな企画や事業を実施しています。

多くの企業は日本国内にとどまらず、国や地域を超えてビジネスを展開しており、多くの仕事が海外と繋がっています。国際的なビジネスを行うにあたっては、英語などの語学力が求められるのはもちろんですが、さらに習慣や文化の違いを理解し、お互いを尊重し合うことが求められています。

私自身も、教員になってから1年間海外に留学する機会がありました。現地の大学では、文化や考え方の違いから日本にいる時のように物事が進まず、苦労した経験があります。しかし、その経験は現在の研究活動や教育の進め方に非常に役立っています。また、留学中に築いた人脈は今も続いていて、共同研究を行う関係へと発展しています。

本校では、現在、マレーシア、ベトナム、シンガポール、台湾などの海外教育機関への学生派遣プログラムを実施しています。昨年度も多くの学生が学校紹介や研究発表を通じて現地学生と交流を行いました。海外の学生とのコミュニケーションを通じて、異なる文化や価値観に触れながら共同で活動する経験は、国際的な視野を広げる大きな機会となります。

また、海外からの受入プログラムにより、本校では留学生を受け入れており、彼らは本校の研究活動に参加しながら、充実した日々を送っています。さらに、6月にはタイ高専から学生が約1ヶ月間の研修で来日し、彼らは各学科での実験授業、クラブ活動、日本文化の体験などを通して本校での学びを深める予定です。皆さんと同じ世代の学生なので、ぜひ積極的に交流行事に参加し、国際的な感覚や異文化理解を体感してもらえればと思います。

これまでにも多くの高専卒業生が海外で活躍しています。皆さんにもこうした経験を通じて、将来の可能性を大きく広げていってほしいと願っています。

新任教職員紹介



林 秀原

■所 属 電気電子工学科
■職 名 助教
■採用日 令和7年4月1日
■前 職 日本文理大学
機械電気工学科 准教授

抱 負：韓国で大学を卒業し、日本で博士の学位を取得した後、大学等で教育と研究に携わってきました。これまで出会った高専出身の学生は、理論と実践のバランスが取れており、課題解決にも前向きで、非常に優秀であると感じています。これは高専での教育の成果だと考えており、私もその一端を担えるよう努めてまいります。研究面では、パルスパワー技術を用いた環境・資源循環分野への応用に取り組んでおり、特に高電圧充電器の開発を通じて、学生が回路設計や実験に主体的に取り組める実践的な学習環境づくりを重視しております。今後も教育・研究の両面から誠実に取り組み、学生の成長を全力で支えてまいります。

趣 味：趣味は水草水槽のレイアウトづくりです。休日は子どもと一緒に遊ぶことが多く、最近はゲームやアニメにも詳しくなってきました。



吉武 靖生

■所 属 材料システム工学科
■職 名 准教授
■採用日 令和7年4月1日
■前 職 北九州工業高等専門学校
生産デザイン工学科
機械創造システムコース

抱 負：初めまして。北九州高専から参りました。私はもともと久留米高専の技術職員として勤務していましたが、博士号取得と同時に北九州高専の教員となり、5年を経て、今回2年間の人事交流で久留米高専に異動してきました。高専間や技術職員と教員では業務内容が大きく異なるので、授業含め大半のことをイチから勉強しています。久留米高専は他の高専に比べて学生の自由度が高いと感じています。バイクなりバイトなりおしゃれなり、是非、充実した学生生活を送ってください。但し、行動には責任が伴います。そのためある意味で厳しい学校とも言えますが、しっかり生き抜いて卒業までたどり着いてください。私も頑張ります。2年間どうぞよろしくお願い致します。

趣 味：子育て・映画鑑賞
編み物経験“0”ですが、最近、「あみぐるみ」を始めました。「ハチワレ」という可愛らしいキャラですが、単純な見た目に騙されて、実は初心者向けではありませんでした。出来たら娘にプレゼントするつもりでしたが、2週で30分程度のペースでは製作に3年くらいかかりそうなので自分のモノにしそうです。

新任教職員紹介



加藤 裕基

- 所 属 一般科目（理科系）
- 職 名 准教授
- 採用日 令和7年4月1日
- 前 職 宇部高専一般科 准教授（数学）

抱 負：私は12年間宇部高専及び山口大学で非常勤講師として講義及び担任指導などを行ってきました。の中で、「どんな学生であっても、できなかったことができるようになると嬉しい」ということは真理であると感じました。どうやったら学生が理解できるか、計算できるか、課題を解決できるかに着目して指導していきたいと思えます。

一方で「学問とは問うて学ぶ」と読むことができるようになると「疑問」は数学を学ぶ上で重要な原動力であると考えます。私は講義の中で考え方は示唆しても問題の答えは絶対に与えないつもりですよ。わずかでも疑問を残しておくことが学生の学習意欲を保つ工夫と考えています。

趣 味：数学の研究以外では英語の勉強が好きだと思います。学生のころはゲームとか将棋とか好きでしたが25歳ごろから身に入らなくなってしまいました。「レベル上げの効率の最適解がわかったら脳目も振らずにその手法を徹底させる」などゲームから学んだこともたくさんあったと思います。



野中 宏修

- 所 属 事務部総務課
- 職 名 課長
- 採用日 令和7年4月1日
- 前 職 国立大学法人九州大学
(病院研究支援課)

抱 負：九州大学から赴任しました。

大学等勤務は30年以上となりますが、高専へお世話になるのは初めてなので、期待と不安とが入り混じった心境です。

私は筑後地方の出身で、今回、地元に戻ってきた感覚で、自然と久留米は落ち着ける場所です。

とはいえ、業務は何事も初めてで、皆さんに色々と教えてもらいながら、できれば楽しく仕事をしていければと思います。楽しく、なんて言ったら日々業務を多忙にこなしておられる方からお叱りを受けそうですが、どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味：・バドミントン（時間があれば、学生の部活動へも一緒になって練習したいと思っています。）

・トレーニング

・次男（小学生）と遊ぶ



松田 嘉弘

- 所 属 事務部学生課 教務係
- 職 名 係長
- 採用日 令和7年4月1日
- 前 職 有明高専 学生課

抱 負：4月に有明高専から3年ぶりに久留米高専へ戻ってまいりました。これまで培ってきた経験を活かしつつ、積極的に学び、成長していきたいと考えております。未熟な点も多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、久留米高専で支えてくださった皆様への感謝の気持ちを忘れず、一日でも早く戦力となれるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

趣 味：・週末に海外サッカーを観ること。

・模様替え（引っ越したばかりで、専ら荷解きに追われています。）



濱崎 加奈子

- 所 属 事務部総務課 研究推進係
- 職 名 主任
- 採用日 令和7年4月1日
- 前 職 高専機構本部財務課財務企画係

抱 負：4月に機構本部より配置換となりました濱崎と申します。

3年間の久留米高専での勤務の後、2年間、機構本部の財務課財務企画係で勤務しておりました。研究推進係に配属となり、初めての業務で不安はありますが、積極的に業務に取り組んでまいりたいと思います。

ご迷惑をおかけすること多々あるかと存じますが、少しでも早く久留米高専に貢献できる職員となれるよう精進いたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味：読書

新任教職員紹介



鬼木 夕嘉

■所 属 事務部総務課
■職 名 一般職員（用度係）
■採用日 令和7年4月1日
■前 職 なし

抱 負：4月に用度係へ配属となりました、鬼木と申します。業務としては、主に物品の調達や管理を行っていきます。社会人1年目で初めてのことばかりで不安な気持ちもありますが、皆様が親切に接して下さるおかげでよいスタートを切ることができており、とてもありがたく思っております。

未熟な点もあり、皆様にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、一日でも早く久留米高専に貢献できるよう精一杯努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味：「ゴリパラ見聞録」鑑賞
温泉巡り



命婦 来奈

■所 属 事務部総務課
■職 名 一般職員（財務係）
■採用日 令和7年4月1日
■前 職 なし

抱 負：4月より財務係に配属となりました、命婦（めいふ）と申します。この度は、久留米高専でお仕事ができることを大変光栄に思います。業務では、就学支援金や学納金等を担当させていただくこととなりました。初めての業務に不安もありましたが、教職員の方々が親身になってご指導していただき、とてもありがたく思っております。私自身も就学支援金制度等に対する理解を深め、学生や保護者の皆様に分かりやすい案内作成、説明を行えるよう精進して参ります。

一日でも早く学生や教職員の皆様のお役に立てるよう努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

趣 味：大学時代ボードゲームサークルに入っており、特に「ito」と「はあって言うゲーム」にはまっています。夏はかき氷巡りをしていて、特に生クリームが乗っているものが好きです。

課外活動報告

弓道部部長が語る我が部の魅力！



弓道部

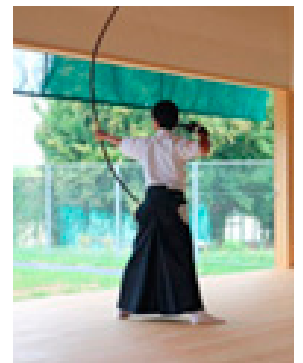
部長 江口 拓杜

Q 1. 弓道部の活動内容を教えてください。

弓道部では平日に週4回、練習を行っています。基本的には自由練習をしていて、弓を引きたい時に引いています。しかし、大会前や審査前には、メンバーと一緒に練習する時間を設けるようにしています。部員には、弓道の技術はもちろん、精神面や礼儀も学んでもらっています。普段の練習では、先輩が後輩に教える姿や、同級生同士で切磋琢磨して技術を磨く姿がよく見られます。

Q 2. 弓道部の魅力はどんなところですか？

弓道の魅力は自分との勝負です。弓道は他の人との中を競う競技但也有りますが、自分と戦う競技でもあります。それは、少しでも心が乱れてしまうと、的には中らないからです。つまり、中てたいと思ってしまったら、中らないということです。弓を引いている時はその気持ちに打ち勝って平常心を心がけ、技術を磨いていくと的に中るようになります。自分の努力が実って的に中ると、言葉では言い表せない達成感を得ることができます。また、弓道では的中だけではなく射形の美しさも大切です。自分の射形を見直して改善していく。それも弓道の魅力です。（中る＝当たる 弓道では「中る」を使います。）



Q 3. 今後の部としての目標をお願いします。

今後の部としての目標は、まず高専大会では個人、団体ともに全国大会出場。そして高体連の大会では個人、団体ともに県大会出場を目指しています。また、審査では今の自分より高い級位、段位の取得をめ目指しています。簡単な目標ではありませんが、この目標に向かって仲間たちと時には教え合い、時には競い合いながら頑張っていきます。

課外活動報告

軽音楽研究部部長が語る我が部の魅力！



軽音楽研究部
部長 糸瀬 響

Q 1. 軽音楽研究部の活動内容を教えてください。

軽音部は文化部発表会や高専祭での演奏を中心に活動しています。自由な雰囲気での部活で、練習時間や頻度に決まりはなく、バンドごとに自主的に練習を行っています。学外イベントに出演するバンドも多く、個性を活かした音楽活動が盛んです。楽器初心者向けの講習会も開催しており、未経験者でも気負わず、安心して参加できます。

Q 2. 軽音楽研究部の魅力はどんなところですか？

軽音部の魅力は、音楽を通じて友達や先輩、後輩とつながり、自己表現できる場があることです。好きなジャンルやスタイルで自由にバンドを組み、自分たちの音をつくり上げていく過程は、他では味わえない達成感があります。ステージでの演奏は緊張

もありますが、拍手や歓声を浴びる喜びは格別です。技術だけでなく、協調性や創造力も自然と身につくのも魅力の一つです。初心者でも仲間のサポートがあり、誰でも気軽に音楽の世界に飛び込めます。日々の練習や交流を通じて、自分の成長を実感できる場所です。学年や経験を超えてつながれるのも、軽音部ならではの楽しさです。

Q 3. 今後の部としての目標をお願いします。

今後の軽音部の目標は、学内外での演奏活動の幅を広げることです。文化部発表会や高専祭はもちろん、地域イベントやライブハウスでの演奏にも積極的に参加し、バンドごとの個性を発揮していきたいと考えています。また、初心者でも安心して始められるようなサポート体制を整え、経験の有無に関わらず楽しめる環境づくりにも力を入れます。部員一人ひとりが音楽を通して成長し、思い出に残る活動ができる部を目指していきます。

